

観自在

弘長寺寺報
第三十五号
平成二十九年
八月(年
二回発行)

真理……この人心を惑わす魅力的な言葉

弘長寺住職 森田裕光

真理とは何でしょう。

辞書には、いつどんなときにも変わることのない、正しい物事の永遠の筋道、真実の道理とあります。

古来より人間は真理を追求したがる生き物でもあります。

哲学者、宗教者は特にその傾向が強いでしょう。

例えば「オーム真理教」などは教団名に真理の文字が入っていますが、実際は真理などとはほど遠い、神仏の威光を笠に着た殺人犯罪集団でした。

現代の「イスラム国」の如く、古今東西、真理や正義を振りかざし、謙虚さなどみじんもない、攻撃的恫喝の排他主義を唱える宗教には、よほどの注意が肝要です。

有名な話ですからご存知の方も多いと思いますが、あるアメリカの詩人が、古代のたとえ話を詩にしました。

その詩はこのように始まります。
盲目でありながら博識なインド人が六人、みんなで象を見に行つて納得するまで触つてた。

六人がそれぞれ象の異なった部分に触り、その感想をほかの人に説明します。

そのうちの一人は象の足に触れて、それは丸くて木のようだったと説明します。

別の一人は牙に触れ、象とはやりのようなものだ、三番目の人は尻尾をつかみ、象というのはロープのようなもの、四番目の人は胴に触れ、巨大な蛇のようなものだと言張します。(少し文章を変更しました)

それぞれが真理についています。

そして、それぞれの真理は個人的な経験からもたらされていきますので、それぞれが自分の話すことは真実で絶対間違いないと主張します。

この詩は最後にこう締めくくります。

「インドの六人、声上げて自分の考え譲らない。みんな正しく、みんな間違いない！」

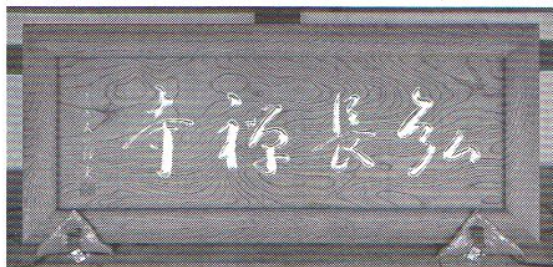
キリスト教など一神教の真理は、聖書にある神の絶対の言葉ですよね。

では仏教の真理はというとそれは悟りでしょう。

だが、お釈迦様は悟りについて語っておられないのですから、仏教の最奥の真理は不明ということになるのでしょうか。

私はあまり真理という言葉にとらわれ過ぎない方が良いと思つています。

自分で真理だと思つていればよいのであって、自分よがりの真理を他人に押しつけたら、強調し過ぎると、必ず争いの種を作ります。



寺号額喜捨：浜西 坂本憲三 殿

「信者激減時代」の先には

弘長寺護持会
会長 武田民三

少し大袈裟かと思いますが、人類と宗教のかかわりの、一つの大きな転換となるかもしれないのです。

そこには天皇の生前退位を巡る公表があり、それは平成の時代が終焉を迎えつつあることを意味していませんか。

ここにとりあげたいのは、宗教には直接結びつかないと思われるかもしれないですが、『世界の宗教は歴史上最大の危機に直面している』と予見する宗教学者もあります。著書に『宗教消滅—資本主義は宗教と心中する』（SB新書）があります。

そこでは、ヨーロッパを中心とした先進国でキリスト教の力が衰え、日曜日の教会に行く人々の数が激減している、

と。

今、教会にやってくるのは高齢者ばかりで、しかもかなり少ない。

だから、人の集まらなくなった教会は、住宅かサーカスの練習場、あるいはイスラム教のモスクに転売されている、と述べています。



このままいけば、今世紀の終わりには、イスラム教がキリスト教を抜いて世界第一位の宗教になる可能性があるとも。

ともかく、イスラム教原理主義は、宗教的な過激派を生み、さらにはテロ事件を引き起こし、宗教としてその勢力

を拡大しています。

アメリカ国内でも特定の宗教をもたない層が増えて、ネット使用者の割合とのあいだに「相関関係」があると報じられてもいます。

ネット社会の傾向が強くなるに従って、人は何か困った門をたたくのではなくて、まずはネットで調べてみる。

実際、ネットを通して様々な情報を得ることができるようになった、宗教はすぐに救いを与えてくれるわけではない。

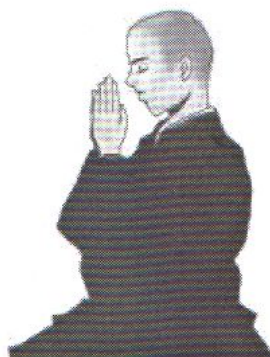
教会の神父や牧師は、問題を抱えた信者に対して祈ることを勧めるでしょう。信者はもう待つことができないのですよ。

「グーグルは神に変わりつつあるのか？」とまで言われているわけです。

では、日本ではどうなのか。ただ、ここどころ一つはつきりしているのが、新宗教の教団が軒並み信者を減らしていることが文化庁宗務課が毎年発行している宗教年鑑に示

されていて、平成の時代に入ってから半減している教団も少なくない、と報じているんですよね。

ここで特定の教団名は明らかにしないでおきますが、一年で26万3千人以上減少し、このままではあと十年もしないうちに教団消滅という事態を迎えるものもあると報告されているのです。



既成仏教教団では、檀家制度であり、宗派が個々の信者を正しく掌握しないので、信者の増減が分かりにくいのですが、東本願寺傘下の真宗大谷派の場合には、平成二年版で553万3194人だったのが、平成二十七年版では

320万4160人と激減しています。

ただ西本願寺の浄土真宗本願寺派では、同じ期間に百万人近く信者を増やしていますね。

ここではつきり申し上げておかなければならないことは、わが『金宝山弘長寺』の檀家数は真正正銘の正しい檀家数であることをご報告させていただきます。ただいとおきます。

宗教の本質は、「聖なるもの」ということにあると思うのですが。

たしかに私たちは神社の境内など神聖とされる場に接すると、畏怖の念を覚える。

あるいは、修行を極めた聖僧に接見すれば、有り難いと感じて自然に頭が下がります。

宗教消滅の時代となれば、神聖なものが次々と失われていくことになり、それは当然人間までに及ぶことになりますよね。

昭和天皇は敗戦間もなく、「現人神」から「人間天皇」を自ら宣言されました。

しかし、その後全国各地を巡幸されて、かえって国民の崇敬の気持ちを高め、戦前とは異なる形ではあるが、神聖な存在にとらえられるようになりました。



それは、現在の天皇にも言えることです。

とくに、被災地を積極的に訪れ、国内外の戦地へ慰霊の旅に赴くことで、国民が頼り、崇めることのできる存在になりました。

ところが、天皇はカリスマの地位から下りようとなされ

ている。

生身の人間として身体や心が神聖な存在であり続けることに耐えられなくなってきたのですね。

ところで、キャラクターは不死身であり、着ぐるみなのだから、その中にだれが入ってもかまわないけれども、キャラクターは、言い方を変えれば「偶像」ですよね。

アイドルもしかりです。

これは偶像崇拜の時代に戻りつつあるという学者も出てきています。

イスラム教などはまさにその典型であるといえます。

日本には、「人を神に祀る風習」がありますが、キャラクターはそうした風習を生んだ日本の文化であり、まさに多神教の神に近い存在なのだと思います。

菩提寺は「香や花」を供えるだけでなく、限りなく多くの人々が訪れる場でなければ

ばならないと信じています。(特に若者に)

いま、弘長寺護持会は新しい世界を求め、新しい「ありかた」を実践しようとしています。

勇気をもって「法話」を「民芸」に置き換えることまでも。

方丈様のご理解をいただき、今年の施食会から進めてまいります。

「お寺」を楽しい場としてたくさんの人々にお参りいただきたいのです。

どうぞ、お待ちしています。

ありがとうございます。

合掌

(参考資料)

「日本経済新聞」の読者で、日経IDを持っている人の中から地域を限定して、無料で配布される「日経回廊」6を参照。(宗教家の悩み)

大本山總持寺研修会

に参加して

副会長 内田 松寿

六月二十日〜二十二日 第二宗務所主催の研修旅行に岸本幸夫氏、大裕副住職、筆者の三名が参加した。

羽田空港に九時十分到着後、三台のバスに分乗し、江戸東京博物館に行った。(江戸ゾーン)《東京ゾーン》各コーナーのテーマにのっとって、江戸東京の歴史を物語る浮世絵や古文書、生活道具などの実物資料が約二千五百点、展示されていた。

両国で昼食(ランチちゃんこ)をとり大本山總持寺に向った。

十四時三十分上山(到着)

曹洞宗の二大本山に相応しい巨大な大寺院が緑の木立の中に建っており、重厚な三門をくぐると、巨大な檀信徒研修道場「三松閣」がある。

三階の十二畳半の部屋で八

人の相部屋に落ち着いた。

四階の大講堂で開校式、

大講堂は二百五十畳敷で、障子や唐紙は薄い白い無地を以って純日本風で清楚な感じに満ちていた。

一六時〜菓石(夕食)が齋堂であった。

九つの器に食材がきれいに載っていた。

五観の偈を唱えた後無言で食事をし、お茶を茶碗と汁椀に注ぎ漬物で軽く洗ってお茶を飲み終わりとする。

一九時〜本山布教教化部出版室長・蔵重宏昭師による法話があった。

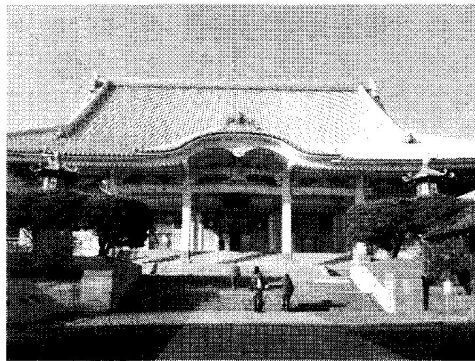
瑩山禅師のお言葉「明かに実道に参ぜんとおもはば、己見旧情憍慢我慢をすて、初心を廻し、仏智を会すべし」

〜明らかに(仏の)実際の道に参じてみようと思うならば、己の見解や培ってきた感情、驕りや我俚な慢心を捨て、初心に戻り、仏の智慧を会得すべきである。

また人権学習としてDVD

の放映がなされた。記念にももらったボールペンにも印字してあるのだが、ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩むことの大切さがテーマになったものだった。

二十時〜入浴、二十一時開枕(就寝)。



第二日目 三時三十分 振鈴(起床) 四時〜三松閣四階の大講堂で三十分間暁天坐禅 坐蒲の上に腰を下ろして足を組む。

三十分位経過したのであろうか? 落ち着いた心持になった。

五時〜まだうす暗い中、かなりの時間回廊を歩いて参

加檀信徒供養・朝課他が行われる大祖堂に向った。

お寺では本堂にあたるところで、高さ三十六m、畳千畳敷の大きさには圧倒された。

読経の後に焼香。大祖堂前でバスの号車毎に記念写真を撮った。

その後諸堂を拝観した。

七時三十分〜小食(朝食) 八時三十分〜閉講式(修了証授与) 九時 出発。

最乗寺(道了尊)の境内は老杉がうっそうと茂り、靈気がみなぎっていた。

一三九四年に了庵慧明が開いた古刹である。道了尊とは、了庵に仕えた道了のことで、靈験によってわずか一年で伽藍建設を成し遂げたとか。

団体祈祷、拝観等を行った。(十時四十分〜十二時)

小田原の鈴廣で昼食後、林泉寺に参拝 住職内山愚童は幸徳事件に連座して処刑された。

平成五年に名誉回復がなされた。(人権学習の教材)

ご挨拶

副会長 内田磯弘

猛暑まことに厳しい今日このごろでございますが、時下ますますご清栄米のこととお喜び申し上げます。

このたび五月の護持会総会におきまして、昨年お亡くなりになられました、故坂本研次さまの後任として副会長に就任いたしました。

何かと未熟でお手数をおかけすることとは思いますが、皆様のご指導を仰ぎつつ、会長を支え、内田松寿副会長とともに護持会発展のため精一杯努力する所存でございます。

しかし思い返しますと、武田会長からの副会長を受けてくれとのご依頼にはびっくりしました。

目が点、青天の霹靂といったところででしょうか。

名だたる先輩諸氏がいらつしやるのに私のようなもの、との思いもあります。

仕事の都合上参加できない

行事も多々ありますと、一度はお断りしたのですが、できることだけでいいからと上手く説得され、ここは思い切つて、浅知短才であることを忘れ、お引き受けいたしました。

どうぞご指導ご協力賜りますようお願い申し上げます。

最初ですので手短く……

曹洞宗青年会

ボランティア活動への

募金願い

副住職森田大裕
 昨今、全国各地を様々な自然災害が襲っております。

この程は次々と局地的な大雨が観測され、河川の氾濫や土砂災害、家屋への浸水等、大変な被害がもたらされている事は皆さまもご存じの事かと存じます。

福岡、大分での豪雨による被害は七月二十五日時点で死者三十五人、行方不明者六人にもなり、両県における今回

の豪雨での被害額は実に千四百億円にも上るという発表がありました。

現在現地では全国から集ったボランティアにより土砂の掻き出し等の作業が行われておりますが、この助けとなつていているカトリックの教会がありました。大きな被害があった朝倉市から七キロ程離れた位置にある、カトリック本郷教会です。

敷地内の信徒会館ホールをボランティア向けの宿泊施設として開放し、「支援に対する支援」を行っております。

食事、風呂、寝具等は各自対応という事になっておりますが、近隣にコンビニや銭湯もあり、大体宿泊期間は一週間と定め対応しています。

私も昨年、熊本地震の際に現地へボランティアに行かせて頂きましたが、現実的な問題として大変なのはやはり宿の確保でありました。

熊本では、東北から来られていて「東日本大震災の時の恩返しをしたい。ここで死んでもいいと思って来た」と一ヶ月車中泊をしながらボランティアを続けておられる方もおられました。

これからも起こりうるであろう自然災害に対して、最も必要なのは「人手」であります。無論重機や専門家による対処が必要な部分も多いですが、土砂の掻き出し等の単純作業には人の手が必要不可欠なのであります。

私が所属しております、いずも曹洞宗青年会では、当会より現地の復興支援に向かう会員有志に対して、交通費、宿泊費、ボランティア活動に使用する消耗備品等への助成を行う救援基金を設置しております。当山本堂に当救援基金の募金箱がありますので、当基金により、会員が迅速、継続的な活動ができますよう、ご賛同を頂ければ何卒ご協力をお願い致します。

お知らせ

お願い

●施食会

恒例の当山最大の行事であります山門大施食会法要を八月七日に行います。

今年はいよいよ趣向を変えて演芸の時間を設けます。

「山一会」による津軽三味線をお楽しみいただきます。

「山一会」の主宰は、山下一幸師：玉湯在住、本場青森へ行きバイトをしながら師匠につかれ数年修行されました。

※安来節全国大会三味線の部優勝をはじめ、津軽三味線全国大会団体の部優勝、個人準優勝等、数々の実績あり。楽しみます。

参拝者も例年より増加が予想されますので、なるべく奥から詰めてお座りください。

また、数に限りがございますので、イスを使用される方は早目におこしください。

●盆棚経

盆棚経は昨年は久戸地区

まで廻りましたので、今年は大森地区からです。

今年もなるべく全檀家を廻る予定です。

八月十三日～二十日まで、

八日間で全檀家を目指して副住職と二人で廻ります。

朝七時～夕六時迄、十四日は初盆のお宅に参ります。

初盆参りの時間指定はできません。

特に今年の初盆は数が多いのでご希望通りにはまいません。

葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)

葬儀や突発事情が多く発生した場合は、全檀家を廻れない場合もありますのでご了承ください。

●秋葉祭

は読経供養の後、本堂にてカラオケ大会を行います。

護持会後援です。

会費は供養料込み二千円を予定しています。(アルコー)

ル・つまみ・ノンアル・ジュースあり) 六時開始予定

※参拝者には秋葉様の御札あり

●寺号額

を喜捨していただきました。

施主は浜西・坂本憲三殿

山号額はあるのに寺号額がなかったものですからお願いをいたしました。

揮毫は、普通は余所のお寺様に書いていただくものなのですが、仏具屋さんに乗せられて住職が書いてしまいました。(結果、一番安上がりの方でした)

●妙法蓮華額

を喜捨していただきました。

施主は大阪・武田 精殿

本堂の東脇間の上に飾らせていただきました。

また、同時に立派な虎の掛け軸も喜捨していただき、方丈の間にかけてさせていただきました。

●大晦日

除夜の鐘撞きに

お詣りください

昨年末 幸せを撞いた方達



住職は考える ①

法華経に学ぶ

法華経を学ぶ上で、この人の存在を無視する訳にはいかないのが、日蓮上人です。

すさまじい方で、純粹で激烈、法難を受けようとも絶対に自らの意志を曲げない。

師匠もなし、十二歳の頃より「日本第一の智者とならん」との誓願をたてられた。

すごい方ですよね。その生き様には圧倒されるばかりです。

私は基本的には日蓮様は好きです、その純粹さ、一途さに惹かれます。

ただ、仏教的に果たしてその言動が、最高で最上であったのかという点については、意見が大きく別れ、疑問符がつくところではあります。

これより、ひろさちや先生の法華経三部作の中の「法華経の世界」から学んでゆきたいと思いますが、その前に私の未熟な思考から出てくる日蓮様への疑念を書き出してみました。

一、お経というものは、お釈迦様の遊行説法で、行く先々で衆生に説かれたものです。

それは靈鷲山で多くの衆生に対しての説法も勿論なのですが、基本的には対機説法（応病与薬）であり、その人の機根に応じて法を説かれたものです。

だから働き過ぎる者には「少し怠ける（体を休める）ことも覚えよ」と説き、怠けているものには「少し働く喜びを見つけよ」と正反対の教えを説かれたことだあってあり得るのだ。

その基本となる数ある対機説法のお経を全く無視して、この法華経だけが最高の法で無上の法力があるのだから、このお経だけ選んでおけばよい、後は全部捨てるという姿勢は、個々人の悩める問題に対する最適の答えがその他のお経の中にあつたとしても全く無視して、全てこの法華経で解決できるのだ、というのはお釈迦様の対機説法に反するあまりにも乱暴なやり方ではないだろうか。



一、日蓮様が、天台智顛の受け売りで、法華経が最高無上の法であることを認識されたのは素晴らしいことでしょう。

最高無上の法を主張す

るだけで押し通されたならば、万人から尊崇される大仏教者でありましたでしょうが、法華経以外のお経を信奉する者を邪信として激しく批判攻撃をして、さらに徹底的な排他思想を持ち出し、仏教者として超えてはならぬ一線を越えられてしまった点が残念です。

しかし、それは日蓮様の性格だからどうしようもないことだったのかもしれない。

ひろ先生の「法華経の世界」を読んでいくと、全般に渡り、直接日蓮様への名指しは避けておられるものの、しかし明確に日蓮様を指すと推察できる文で、かなり辛辣に批判をされています。

例えば、

菩薩乘（大乘）を歩む人が、もしも自分の歩む仏教だけが優れており、他の人の歩む道はまちがっ

住職は考える ②

「そのひとはと考えるなら、
『法華経』をわかつて
いないのです。」

「法華経』は、釈迦
仏はすべての、人を
と認め、おれ、を
ぞれの仏子が、分、れ
番ふさを待し、道を歩
こととを期待して、おれ
ると説いた経典です。」

「だから、他人に對し
て、あなた、人間、つ
ば、その人が、一、法
華経』の精神が、わか
て、私、法華経を、そのよ
うに読んでいます。」

「法華経が言っている
ことは、すべて、の、教
者が、仏子である、と、い
うことです。」

「みんな、仏の子、なん
だ、小乗、仏教の、人、た、ち、も
仏の子です。」
「だから、小乗、仏教の、人、

「たちも、仏になる、こと、が
できる、のです。」

「ところが、中には、
一部の、人々、は、仏、に、な、れ、
ない、と、主張、する、人々、も
います。」
「そう、いう、人は、『法華
経』を、信、じて、い、ない、
『法華経』を、正、しく、理、解
して、い、ない、の、です。」



「例え、ば、南、無、阿、彌、陀、仏
を、唱、え、て、い、る、浄、土、宗、の、
信、者、は、ま、ち、が、つ、て、い、る、
と、他、宗、を、攻、撃、す、る、人々
が、い、ま、す。」

「それ、は、法華経を、正、し
く、理、解、し、て、い、ない、の、で、
す。」
「法華経は、あ、ら、ゆる、人、は
仏、に、な、る、と、言、っ、て、い、る、

「のです。」

「もちろん、遠い、未、来、の
こと、です。」

「だから、こ、そ、の、現
世、に、お、ら、い、て、は、キ、リ、ス
ト、教、徒、で、あ、つ、て、も、イ、ス
ラム、教、徒、で、あ、つ、て、も、
浄、土、教、の、信、者、で、あ、ろ、う、
と、禪、宗、の、人、で、あ、ろ、う、と、
神、道、の、人、で、あ、ろ、う、と、
無、宗、教、で、あ、ろ、う、と、す
べ、て、の、人、が、遠、い、未、来、に
お、い、て、仏、に、な、る、の、です。」

「あるいは、犯、罪、者、で、あ、つ
て、も、そ、れ、は、現、世、の、姿、で
あ、つ、て、来、世、の、来、世、に
お、い、て、な、る、可、能、性、が、あ
り、ま、す。」
「それが、信、じ、ら、れ、た、時、
は、信、じ、め、て、我々、は、法華経
を、信、じ、理、解、し、た、こ、と、に
な、り、ま、す。」

「私、た、ち、は、す、べ、て、の
人、が、仏、子、で、あ、る、と、言、わ
れ、た、時、ま、ず、自、分、自、身
が、仏、子、で、あ、る、と、思、っ、て
し、ま、い、ま、す。」

「それで、法華経を、理、解
し、た、つ、も、り、に、な、り、ま、す
が、自、惚、れ、に、す、ぎ、ま、せ
ん。」
「仏教の、言、葉、で、言、え、ば
増、長、慢、で、す、ね。」

「そう、で、は、な、し、に、他、人
様、自、分、の、嫌、い、な、人、が
仏、子、で、あ、る、と、信、じ、ら、れ
た、と、き、が、真、に、『法華
経』を、信、じ、た、こ、と、に、な
る、の、です。」



「極、端、な、言、い、方、を、す、れ
ば、自、分、は、ど、う、だ、つ、て
い、い、の、です。」

「他人、が、仏、子、で、あ、る、と
信、じ、る、こ、と、が、肝、要、で、す。
か、そ、う、考、え、る、なら、
難、解、の、経、典、で、す、ね。」
「難、信、

弘長寺護持会主催

臨濟宗大本山天龍寺拝登と赤穂観光の旅

平成29年11月15日(水)～16日(木)

宍道町～赤穂～神戸みなと温泉泊～天龍寺～宍道町

参加費：39,000円

さて護持会研修旅行は毎年充実した研修成果を上げておりますが本年は京都の臨濟宗大本山天龍寺様に拝登したいと存じます
観光客が引いてからの禅修行の厳しさで有名なお寺です

観光客の多さと拝観料の収入では天龍寺様は京都でもトップクラスの寺院です

何ととっても嵐山駅の真ん前ですから平日でも人の山です
住職は数年前第二教区護持会の旅行で嵐山に出かけましたが嵐山の駅から渡月橋まではまるで外国に来たようです
大声の中国語をはじめ世界中の言語が飛び交っています

何故天龍寺かと申しますと実は天龍寺の現在の管長(禅師様)は住職と従兄弟の間柄です 母親同士が実の姉妹なのです

管長は京都大学大学院の哲学科卒 実家は松江市古曾志町の臨濟宗妙心寺派道栄寺で 住職は若い頃何ヶ月か泊まり込み 一緒に釜の飯を食べた仲でございます

天龍寺管長に拝登のお願い文を出し快諾していただきました
特別待遇で管長直々に相見されお話をいただきます
そして法務部長様が山内の案内をしてくださるそうです
お昼は嵐山の借景をご馳走に天龍寺様の精進料理をいただきます
紅葉を見ながら至福のひとときを過ごしたいとおもいます
一般観光では絶対あり得ない天龍寺特別待遇の旅に是非ご参加されませんか

日程は上記の通りです
申し込み締め切りは十月十三日(金)です お早めにどうぞ

合掌

弘長寺護持会 会長 武田民三
弘長寺 住職 森田裕光